

> arcserve® Unified Data Protection

製品テクニカル ホワイト ペーパー

Christophe Bertrand、製品マーケティング担当副社長

はじめに

データの増加と仮想化などの技術の進歩を受けて、現在のデータ保護アーキテクチャが対応できる運用分野だけでは不十分になっています。さらに、データ保護はいまだに個別対応されています。よく見ると、ユーザの不満が蔓延していることも現在のインフラストラクチャを見直す原因になっていることがわかります。データ保護ソリューションの多くは対応範囲が限られているため、数多くのポイントソリューションを使用することで複雑さが増し、あらゆる規模の部門や組織においてその管理が非常に困難になっているのです。

今日の IT では、サービスの提供がすべてです。システムとアプリケーションの相互依存性を理解して適切に管理し、許容時間内に IT サービスの提供を再開できることを証明する必要があります。目標復旧時点 (RPO) や目標復旧時間 (RTO) などの基準が、ビジネスの可用性と同義語になっているのはこのためです。

現在のデータ保護ソリューションのアーキテクチャは、プロセスの非効率さを測定してそれを軽減するといった機能がなく、リソースの利用を最適化することができていません。高額ライセンスが必要な時代遅れのソリューションや、ポイントソリューションは、複雑さの上に複雑さを重ねて問題を悪化させるだけです。

ただし、これからは違います。



arcserve® Unified Data Protection の概要

これらの問題を軽減できる新しいソリューションを開発しました。 arcserve UDPは新しい arcserveソリューションですが、十分に成熟し実証された arcserve 技術を基盤に構築されており、エンドポイントの保護からリモート の複数サイトまでシームレスなソリューションを提供します。

arcserve Unified Data Protection (UDP) は、業界で認められたバックアップ、レプリケーション、HA (ハイアベイラビリティ)、バックアップサーバ全体の重複排除技術を1つにまとめた最初のソリューションです。新しい arcserve UDP(Unified Data Protection)は、次世代の統合型アーキテクチャに基づいた、比類のない使いやすさで、仮想環境と物理環境に対応した包括的な Assured Recovery™ を提供します。この機能豊富なソリューションを使用すれば、IT 環境を簡単に拡張できるうえに、オンプレミス、オフプレミス、またはクラウドにおける目標復旧時点 (RPO) と目標復旧時間 (RTO) を達成できます。従来の複雑なバックアップ ポリシーに代わる現代的なタスクベースのバックアップ プランと、ハイパーバイザとの緊密な統合により、複雑で日常的な反復作業を完全に自動化できます。

arcserve UDP は、仮想・物理どちらの環境にも次世代の統合型アーキテクチャを利用できます。これまでにないその幅広さ、使いやすさ、自動復旧テスト機能により、他のデータ保護ソリューションとは別次元のソリューションとなっています。この統合ソリューションは、次のような革新的機能を提供します。

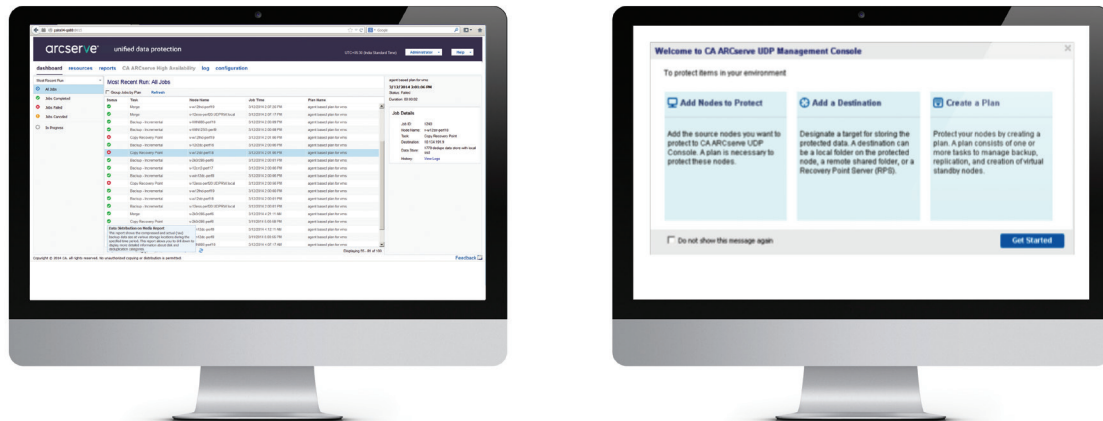
- 統合管理コンソール
- シンプルなタスクベースのバックアップ プランと HA プラン
- VMware、Hyper-V (Windows、Linux VM) 用のエージェントレス バックアップ
- 物理システムのサポート (Windows、Linux)
- レプリケーションと HA (ハイアベイラビリティ) を標準装備
- バックアップ サーバ全体の重複排除
- ディスク イメージのテープへの移行と、ディスクまたはテープからの個別リストア

arcserve UDP の主な差別化要因とメリット

使いやすさ: 統合管理機能と、一元化されたレポートおよび導入でデータとシステムの保護と復旧がポイント ソリューションより大幅に簡素化されます。その結果、データとシステムの保護と復旧の運用効率が向上します。

ソリューションの幅広さ: arcserve UDP は、イメージ バックアップ、レプリケーション、HA (ハイアベイラビリティ) など、通常は複数のポイント ソリューションでカバーされるエンタープライズ レベルの幅広い機能を提供します。それにもかかわらず、オンプレミス、オフプレミス、クラウドのいずれでも、複数の仮想および物理プラットフォームにまたがる arcserve UDP の導入、使用、および管理は簡単です。

自動 DR/Assured Recovery™: arcserve UDP は、先進的なデータ保護、復旧、および HA (ハイアベイラビリティ) 戦略を導入するための豊富な機能のセットと組み合わせることで、業務の中断や本番システムへの影響なしで実施できる、基幹システム、アプリケーション、データの自動復旧テストを可能にします。



革新的な次世代の統合型アーキテクチャ

arcserve UDP には、革新的な次世代のサービス指向アーキテクチャが採用されています。この新しいアーキテクチャは「サービス」指向です。このアーキテクチャにより、データとシステムの保護と復旧は、社内の IT 専門家が社内、またはサービス プロバイダが外部から提供できる IT サービスになります。

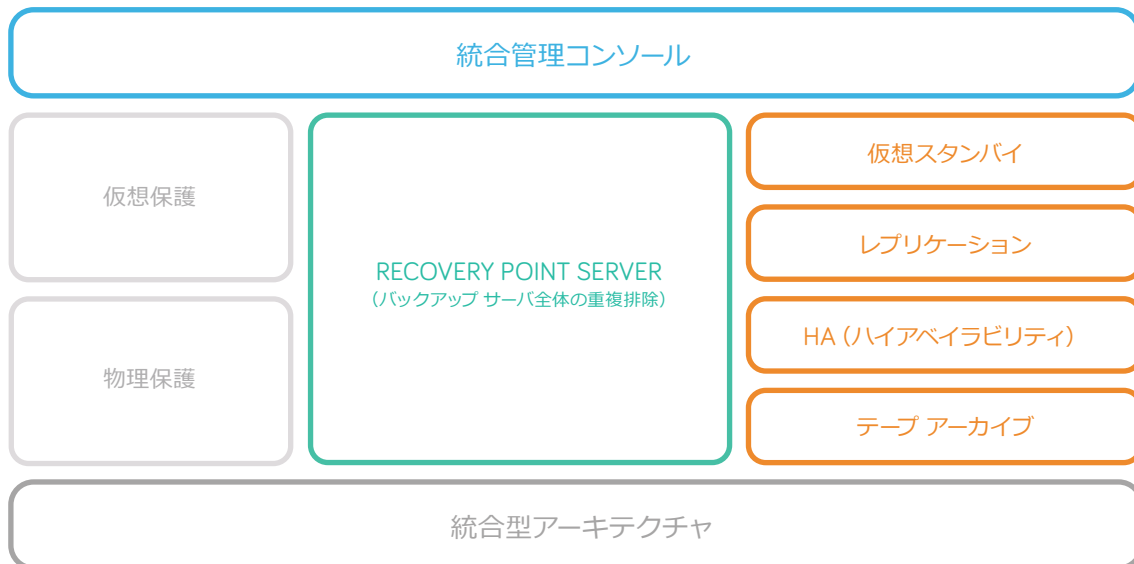
arcserve UDP が革新的であるのは、いくつかの新しい技術を導入する一方で、業界で実証済みの複数のソリューションを活用して、それらを単一の統合プラットフォームにまとめた点です。

差別化要因となる主要な技術と革新的技術に基づく arcserve UDP は、データ保護、復旧、HA（ハイアベイラビリティ）のための次世代統合プラットフォームです。

この統合型アーキテクチャは、以下の図に示す要素で構成されています。個々の要素は、単一のサーバに配置することも、複数の物理サーバや仮想サーバに分配または分離して拡張性の高いソリューションを実現することもできます。



arcserve UDP のアーキテクチャの詳細



エンドポイント保護

- 仮想ホスト保護のためのエージェントレスのシングルパス バックアップ
- 物理システム保護のためのハイブリッド エージェント(独立したローカル UI とリストアを持つ、または中央で一元管理される)

Recovery Point Server (RPS)

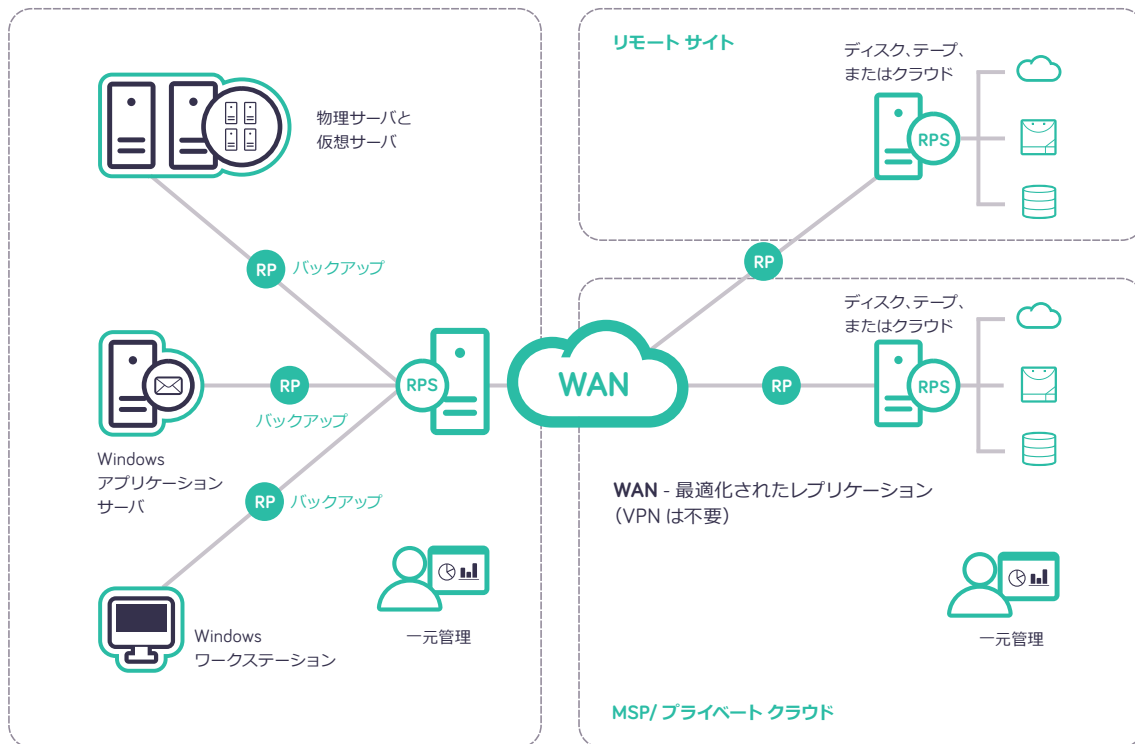
- グローバルな情報ストア
- ソース側のデータを削減
- 全ノードを対象としたバックアップ サーバ全体の重複排除
- レプリケーションを標準装備
- AES で暗号化されたバックアップ
- データ シーディング
- RPS のジャンプスタート (オフライン同期/データ シーディング)

その他の要素

- 一元管理
コンソール (何千ものノードを管理できる)
- 業務の中断なしで復旧を行うためのインスタント仮想スタンバイ
- バックアップ /RPS のテープへのアーカイブ (インプレースでの復元が可能)
- 拡張のための分離と必要に応じた追加が可能



arcserve UDP – 災害対策の構成例



統合管理コンソール

arcserve UDP は、環境全体を迅速かつ簡単に管理できる単一の Web ベースの管理コンソールを提供します。この統合管理コンソールでは、導入、日常的な管理作業、レポート作成を大幅に簡素化するさまざまなウィザードを利用できます。



サーバ、デスクトップ、ラップトップのエンドポイント保護

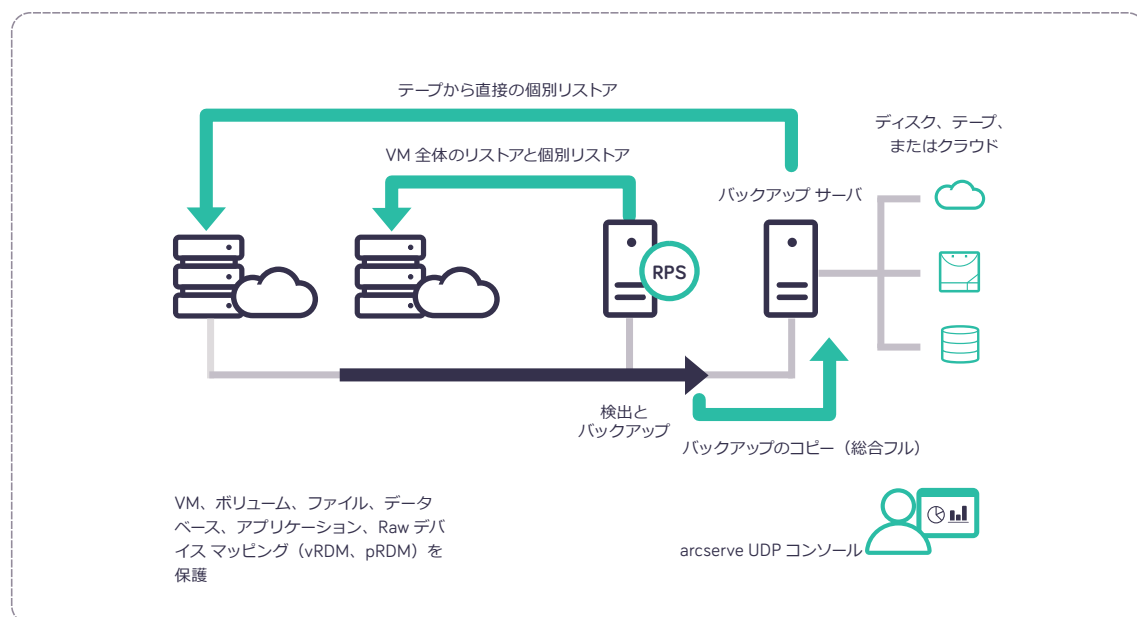
エージェントレス VM バックアップ

ホストベース / エージェントレス バックアップ プロキシは、各 VM にソフトウェア エージェントをインストールすることなく、すべての仮想マシンのシングルパス バックアップが可能です。このため、仮想マシンへの負荷を軽減できます。

- VMware 環境と Hyper-V 環境に対応した、全 VM の高速シングルパス バックアップ
- vSphere、VDAP、VDDK、VIX、vDS などの VMware、Hyper-V 技術との統合により、管理を簡素化
- ターゲット ハイパーバイザ上の VM を自動検出
- アプリケーション レベルで一貫したバックアップ (Exchange、SQL など)
- 変更されたブロックのみのバックアップ
- 各 VM からの電子メールと個々のファイル / フォルダの個別復旧
- 統合管理コンソールからのノード、グループ、計画の一元管理

Microsoft Hyper-V 環境の場合、VM の仮想ディスクに対する変更を追跡する新たな変更ブロック追跡メカニズムが UDP に導入されました。変更されたブロックの追跡により、各仮想ディスク内の変更または使用されたブロックのみが実際に読み取られることになるため、パフォーマンスが大幅に向上し、全体的なストレージ使用量が低減します。さらに、arcserve UDP では、ファイル システムおよびアプリケーション レベルで一貫したバックアップを実現するために、VSS スナップショット技術が活用されています。その結果、バックアップ セッションのフォーマットは、VMware 仮想マシンの UDP クライアント バックアップおよびホストベース バックアップと同一になります。

VMware、Hyper-V 用のエージェントレス バックアップ





ハイブリッドに対応したエージェント

ハイブリッド エージェントは物理（および仮想）システムの保護に適用され、ローカルでのリストアまたは UDP コンソールによる一元管理を可能にする機能をユーザに提供します。

復旧ポイント サーバ (RPS)

復旧ポイント サーバ (RPS) は、新しいアーキテクチャ コンポーネントであり、 arcserve UDP ソリューションの中核となるユニークな技術のセットです。RPS の主要な機能には次のものがあります。

バックアップ サーバ全体の重複排除

arcserve UDP のバックアップ サーバ全体の重複排除機能によって、バックアップ サイクル中に実際に転送されるデータの量は大幅に削減されます。

インフラストラクチャ内のすべてのクライアントで重複を排除する機能は、既存データの不要な保存と転送を制限するために中心的な役割を果たし、データを「グローバル」なものにします。つまり、ノード間、ジョブ間、サイト間でデータの重複を排除します。すべての RPS サーバですべてのソース データとターゲット データの重複を排除できるように、バックアップ サーバ全体の重複排除データベースが配布されます。バックアップ データが実際にターゲット RPS に転送される前に重複が排除されるため、変更のみがネットワークを通じて転送され、その結果としてパフォーマンスが向上し帯域幅使用率が低減します。このプロセス全体が、データストア レベルの暗号化とセッションごとのパスワードで保護されます。

arcserve のバックアップ サーバ全体の重複排除とは異なり、他社ソリューションの多くは 1 つのノードや 1 つのバックアップ ジョブで重複を排除するだけなので、帯域幅やストレージの節約という点では全体的な潜在的メリットが小さくなります。

arcserve UDP を使用すれば、ストレージと帯域幅の要件を最適化できるうえに、サイト間での保護と復旧を迅速化できます。さらに、テープからのリストアを含む高速の個別リストアであるため、データをインプレースで復元することもできます。

また、重複排除データベースのインデックスを高パフォーマンスの SSD に保存することもできます。これは、メモリベースのアプローチと比べて、パフォーマンスと効率を向上させてコストを削減できる効果的な方法です。

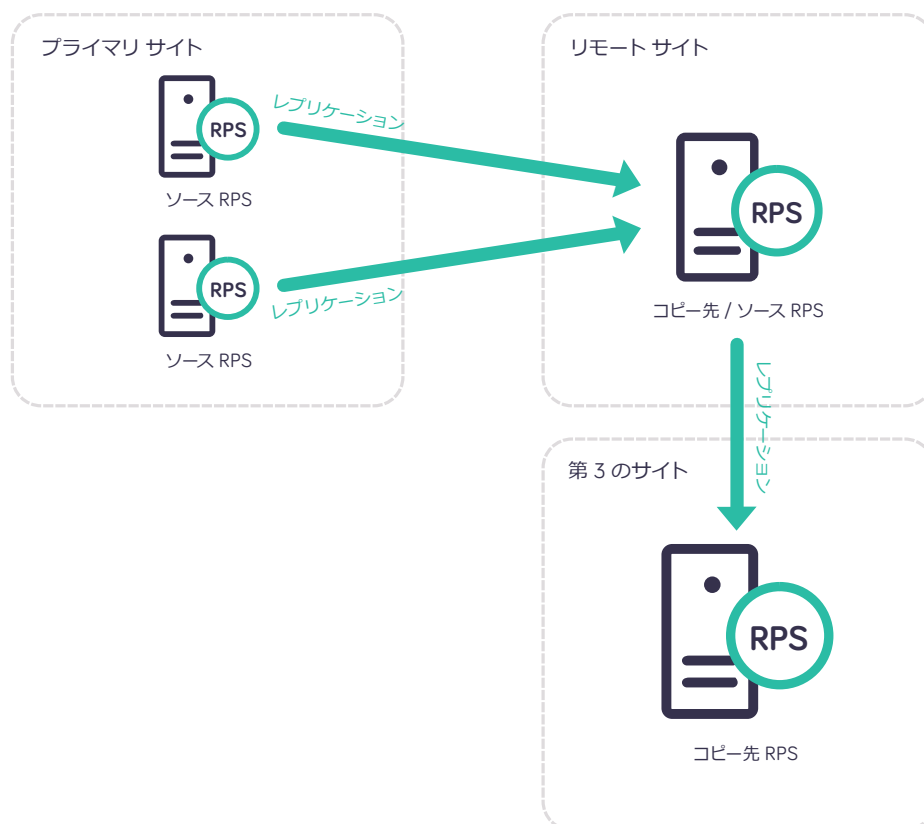


実証済みのレプリケーション機能を標準装備

arcserve UDP は、業界で認められたレプリケーション（ arcserve RHA）技術を標準装備しています。このレプリケーション機能は、復旧、HA（ハイアベイラビリティ）、またはその両方を必要とする複数サイト環境にとって理想的です。また、このソリューションには WAN 最適化機能と帯域幅スロットリング機能も標準装備されており、ユーザがネットワーク帯域幅の使用率とコストを制御できます。

arcserve UDP の主要なレプリケーション機能には次のものがあります。

- RPS から RPS への実証済みのブロックベース レプリケーション
- ファイアウォールと NAT 構成の問題を取り除くための、HTTP トンネリングを介した一方通行通信
- オフライン同期と、リンク障害に耐性のある自動再同期
- 1 対多と多対 1 のレプリケーション機能
- レプリケーション タスクの完了時の検証
- 同時ジョブとマルチストリーム レプリケーション
- 圧縮と暗号化





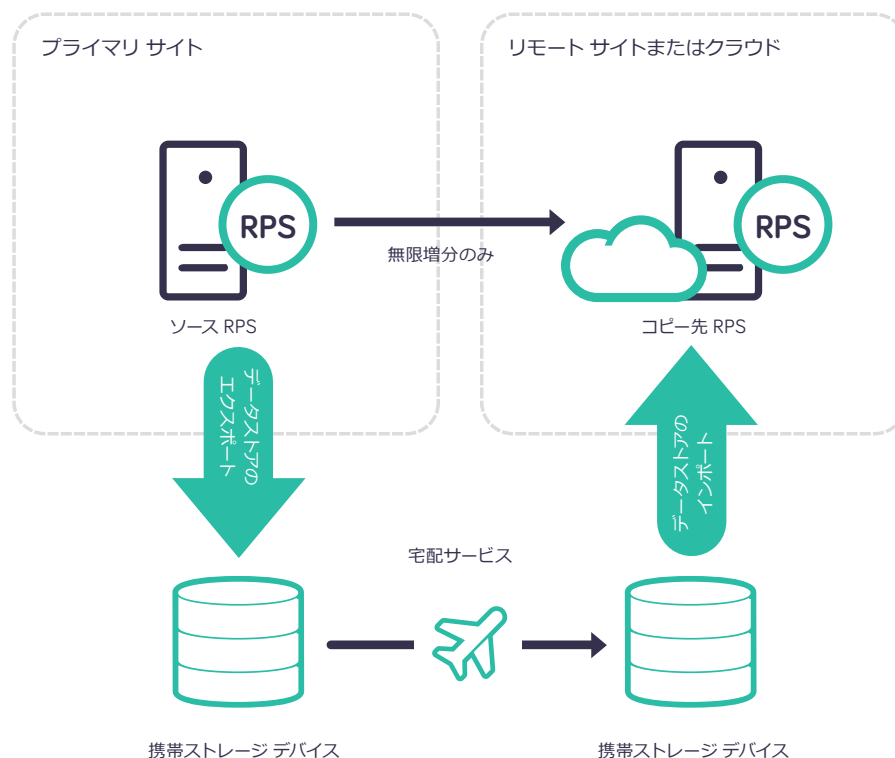
復旧ポイント サーバの簡単スタートまたは「オフライン」同期

ユーザはこの機能を使用して、復旧ポイント サーバ (RPS) のデータストアを携帯ディスク装置 (小型 NAS など) に保存してリモート サイトに転送できます。これにより、リモート復旧ポイント サーバ (RPS) を同期させるための帯域幅、時間、コストを大幅に削減できます。このオフライン同期プロセスは基本的に、復旧ポイント サーバ (RPS) の導入を迅速化し、時間と費用がかかるデータ転送の最適化に役立ちます。

オフライン同期は、帯域幅が限られた環境や接続料金が従量制の環境に適しているだけでなく、サービスの一環として arcserve UDP を使用するサービス プロバイダにとっても理想的です。

オフライン同期のもう1つのメリットは、データ損失のリスクを抑えられることです。オフライン同期では、ネットワークを通じて完全な同期が達成されるのを待たなくとも (大規模なデータストアでは数日かかる場合もあります)、リモート サーバへのコピーが完了すればすぐに「データストア」ことができます。携帯ディスク装置を使ったデータの物理的な転送に1日かかる場合、データストアの更新にかかる時間はわずか1日なので、プライマリ サイトへのリスクも小さくなります。このソリューションはさらに、Amazon、Azure、Rackspace など、シーディング サービスを提供するパブリック クラウド プラットフォームもサポートしています。

復旧ポイント サーバの簡単スタート





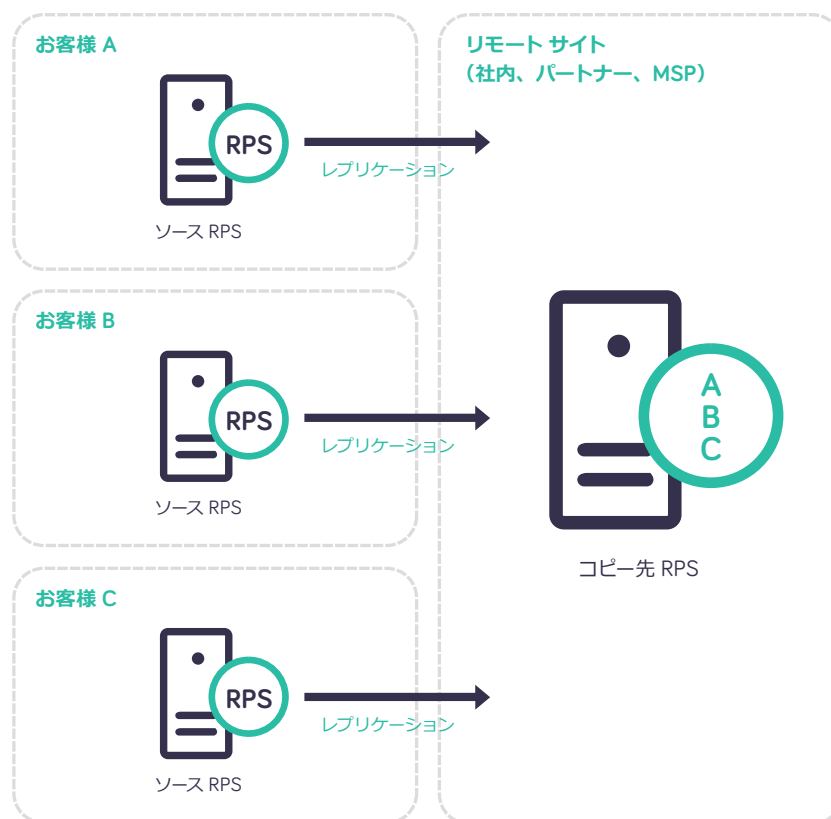
マルチテナントのストレージ保管

この機能は、RPS 内のユーザ データを論理的に分離するために使用されます。データはローカルの復旧ポイントサーバに保存された後、バックアップ サーバ全体の重複排除機能を使って中央の復旧ポイント サーバ (RPS) に複製されます (多対 1 で)。

このデータは、暗号化の方法 (256 ビット AES 暗号化がサポートされています) と、管理者がお客様のデータにアクセスするときに要求されるセキュリティ認証の両方によって、サーバ上で論理的に分離されます。独立したフォルダ構造を活用することにより、お客様の RPS 名によるアクセスを使用できます。

さらに、バックアップ サーバ全体の重複排除がすべてのテナントのストレージに適用されるため、運用効率が向上し、ストレージのコストがさらに低減します。以上の理由により、arcserve UDP は、MSP にとっても IT サービスを共有している組織や部門にとっても、理想的なソリューションです。

マルチテナントのストレージ保管



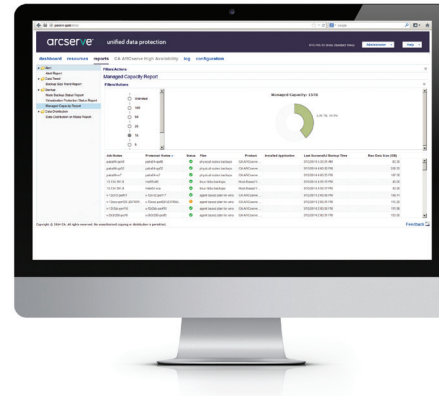


その他の主要機能

復旧ポイント サーバ (RPS) は、前述のように圧縮や AES 暗号化などの技術も使用します。RPS サーバには、多くのリソースを使用するタスク (バックアップのマージ / 消去プロセスやカタログ作成など) が本番サーバにかかる負担を軽減するという働きもあります。

オープン API の完全なセットが用意されているうえに、ライセンス管理の簡素化に役立つマネージド キャパシティ レポートも含まれています。

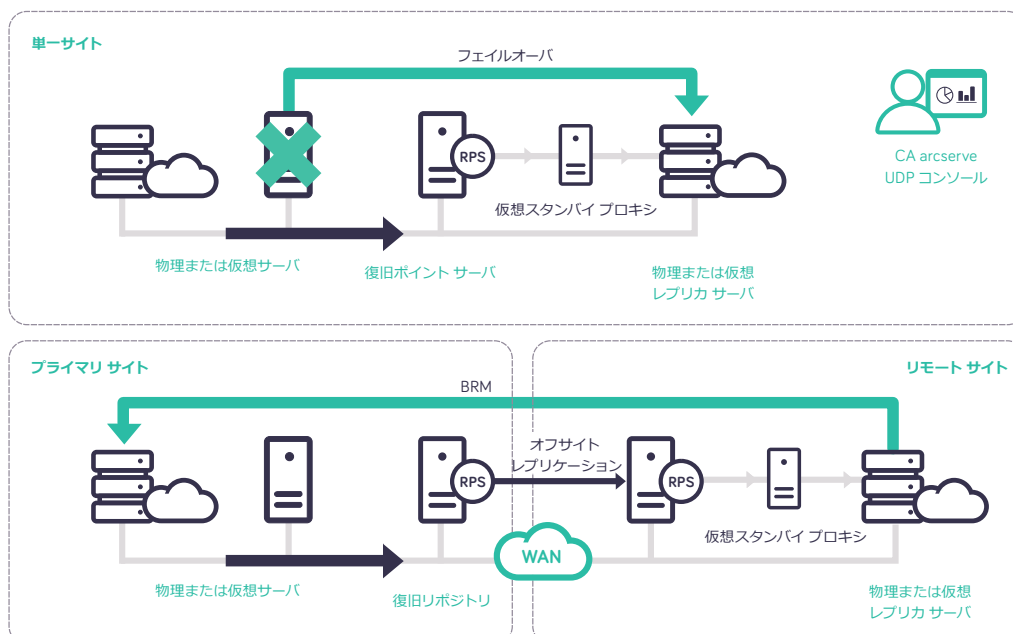
マネージド キャパシティ レポート



仮想スタンバイ プロキシ

このアーキテクチャ要素は、Windows サーバと VM について、システム、アプリケーション、データの定期的なイメージベースの保護と、稼働中の VM がそのバックアップ イメージにフェイル オーバできるようにする機能を提供します。選択したトポロジに応じて LAN または WAN を通じて、リモートの保存場所 (リモート オフィス、DR サイト、MSP、クラウド) へレプリケーションした後、VHD または VMDK 形式への復旧ポイント変換を実行できます。

RPS を使用したローカルとリモート仮想スタンバイ





バックアップ プラン

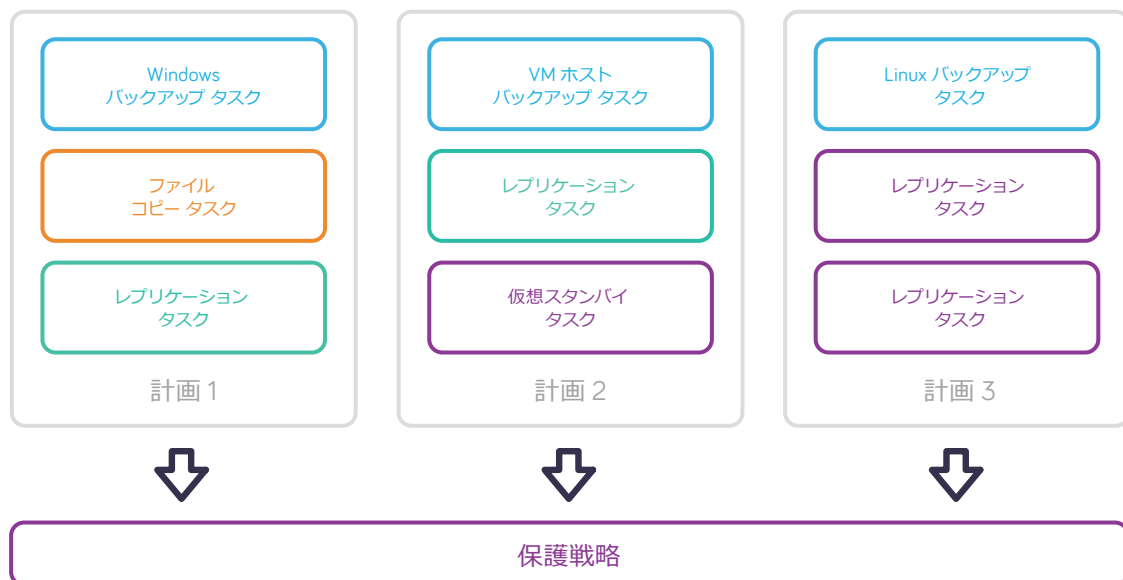
arcserve UDP の統合管理コンソールによって可能となるユニークな機能の1つに、バックアップ プランの作成があります。これらの計画を組み合わせ、組織のデータ保護戦略を構築することができます。

従来のデータ保護ソリューションでは、非常に複雑な環境を保護するために、複数の製品やシステムにまたがる場合が多いばらばらのバックアップ、レプリケーション、フェイルオーバー ポリシーを使用して、タスクを定義する必要がありました。

これとは対照的に、UDP のバックアップ プランは、デバイスを保護するために必要なデータ管理アクションおよびタスクをすべて含む単一の管理オブジェクトで構成されます。これらの計画が組み合わさって、ユーザによるカスタマイズが可能で1つまたは複数のノード適用できるタスクのワークフローが形成されます。このワークフローは、オフサイト レプリケーションや HA (ハイアベイラビリティ) など多くの先進的機能を組み合わせることができるデータ保護の完全なライフサイクルの生成を可能にします。

基本的に、ユーザはこれによって、同じ特性を共有するノードについてサービスレベル指向の計画や特定の保護計画を作成できるようになります。 arcserve のバックアップ プランを使用すれば、各ノードに必要なきめ細かい RTO/RPO レベルを迅速かつ簡単に達成できます。これは、市場に出回っている他のデータ保護ソリューションとは異なる arcserve UDP のユニークな機能です。これらの計画は、多くの面で SLA の「ダイヤル」に似ています。すなわち、ユーザが必要な RPO/RTO のレベルにダイヤルを合わせると、望ましい結果を得るために最も適切な技術がソリューションによって選択されます。

保護計画の例

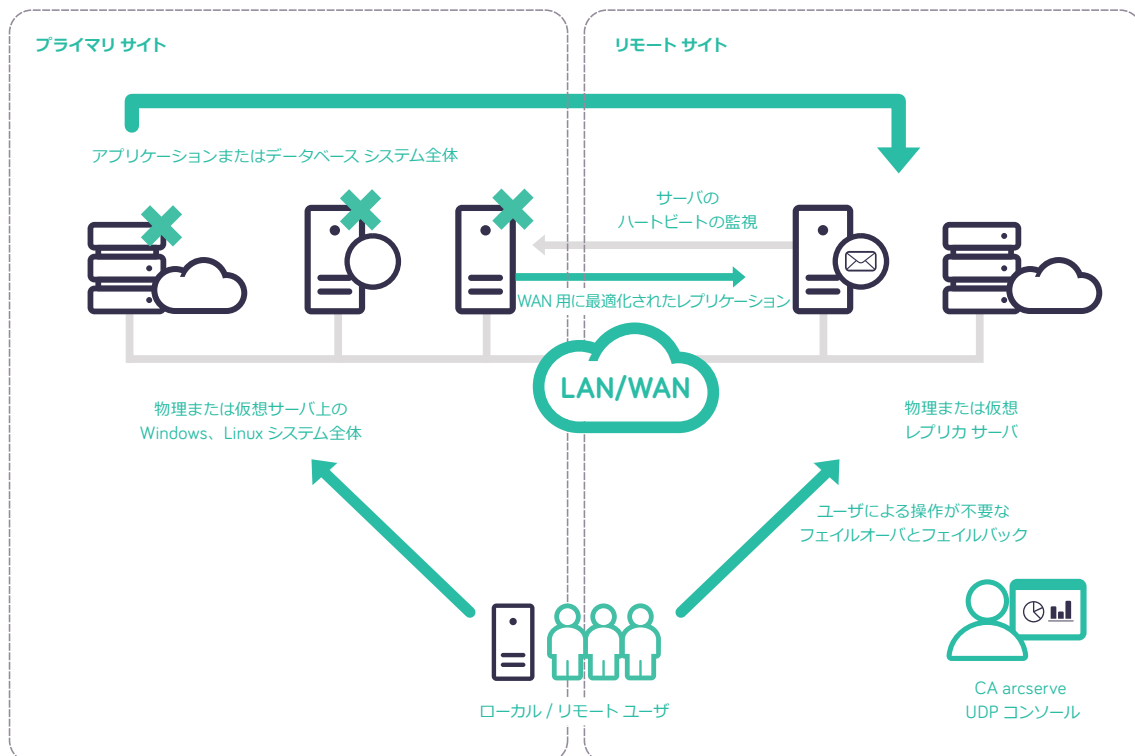




arcserve UDP を使用すれば、先進的な HA（ハイアベイラビリティ）機能を活用して RPO と RTO を強化できます。フェイルオーバー操作とフェイルバック操作は自動化され、簡単に構成できるようになります。この、仮想および物理システム全体に及ぶプッシュ ボタン式のニア インスタント復旧には、次のような特性があります。

- arcserve UDP コンソールとの統合
- Windows、Linux のシステム全体（OS、アプリケーション、データ）を保護
- 継続的なシステム全体のレプリケーションにより、ビジネス アプリケーション、ファイル、データを含むシステム全体のニア インスタント復旧が可能
- 自動化された DR テスト、プッシュ ボタン式のフェイルオーバー / フェイルバック、またはその両方
- リモート サイトのための WAN 用に最適化されたレプリケーションとオフライン同期
- P2P、P2V、V2V、V2P をサポート
- DAS、SAN、NAS、クラウド ストレージをサポート

システム全体の HA（ハイアベイラビリティ） / フェイルオーバー



テープへの保管

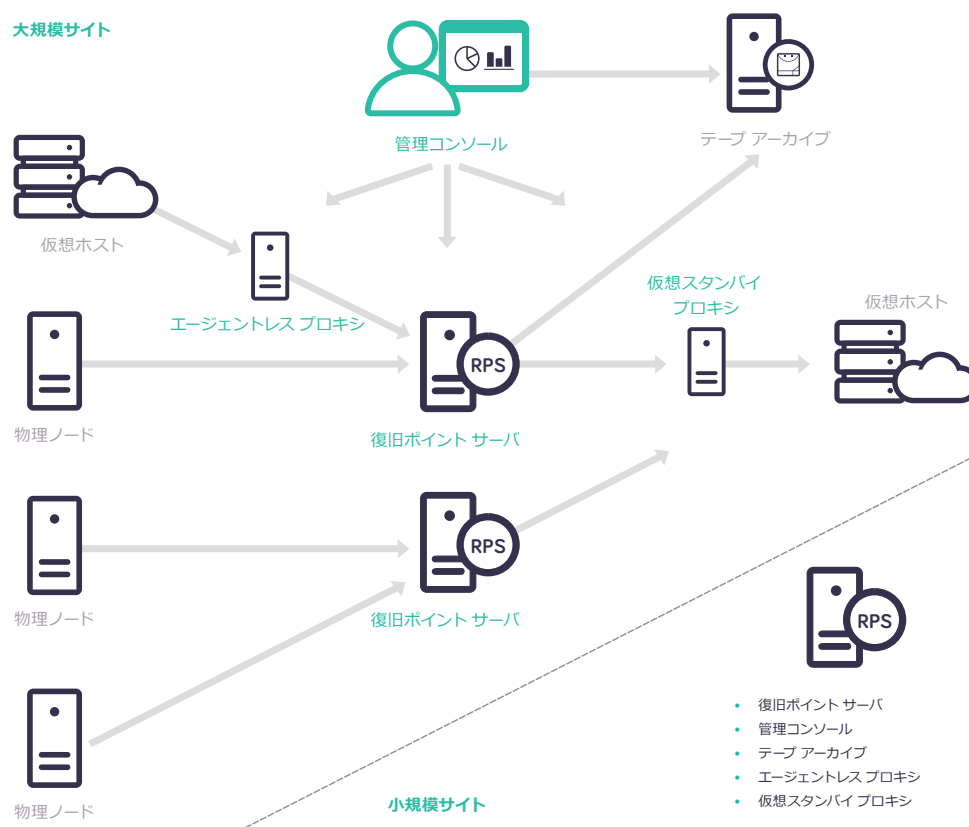
この要素は、arcserve UDP にテープ保管機能を提供します。これには、復旧ポイント サーバ (RPS) の重複排除データストアのテープバックアップを実行する機能も含まれます。また、重複排除されたバックアップを簡単にテープから直接リストアして復元したり、1 ステップでファイル レベルのリストアを行うことができます。さらに、テープはいまだに、アーカイブ、コンプライアンス、またはその両方の目的でデータを長期保存するための媒体として多くの環境で使用されています。



スケーラビリティ

大規模企業が arcserve UDP を拡張する場合、個々の要素または「役割」を別々のシステムにインストールすることができます。中小企業やリモート オフィスは、ソリューションの要素や「役割」を単一のシステムに統合してコストを削減することができます。

スケーラビリティ構成例



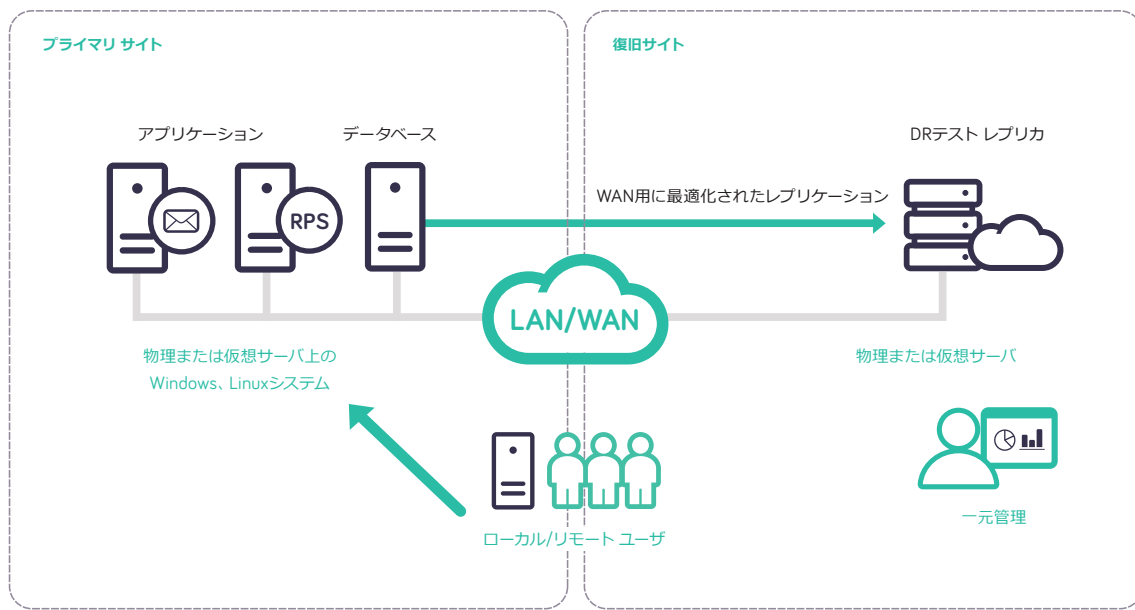
自動復旧テスト

arcserve UDP を使用すれば、業務の中断や本番システムに影響せずに、基幹システム、アプリケーション、データの自動復旧テストを実行できます。

- 基幹システム、アプリケーション、データの自動復旧テストを、リモート DR サイトやホスティング プロバイダにある独立のレプリカ サーバで実行できます。
- 業務の中断を必要としない DR テスト プロセスなので、業務の中断と本番システムへの影響を回避できます。
- 必要に応じて、復旧テストを完全に自動化する（スケジュールに従って実行する）ことができます。
- Assured Recovery のレポートでは、コンプライアンス監査担当者に、システムの復旧可能性の証拠が示されます。

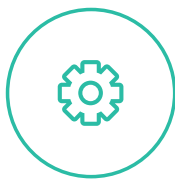


自動復旧テスト



機能の詳細

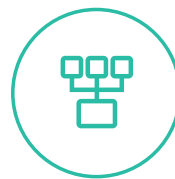
arcserve UDPは、エンタープライズレベルの機能を備えていながら簡単に導入できる自動復旧テスト機能を提供します。このソリューションは、物理保護と仮想保護を最適化するために設計され、データおよびシステムの保護と復旧サービスを提供するために調整されました。



エンタープライズ
クラスの機能と
パフォーマンス



仮想保護のために
最適化



使いやすさ



サービス指向の
プラットフォーム



主な機能

- 自動復旧テスト機能を備えた次世代の統合データ保護アーキテクチャ
- 統合管理コンソール
- VMware、Hyper-V (Windows、Linux VM) 用のエージェントレス バックアップ
- 物理マシンのサポート (Windows、Linux)
- 統合されたレプリケーション、HA (ハイアベイラビリティ) オプション
- ローカル、リモート仮想スタンバイ
- テープ アーカイブ
- バックアップ サーバ全体の重複排除
- ブロック レベルでの無限増分 (I2 テクノロジ) TM バックアップ
- マルチサイト保護の強化 (支店や MSP に最適)
- Exchange、SQL、ファイルの個別復旧
- データとシステムをリストアするための複数の方法
- 元のハードウェアおよび異なるハードウェアへのベアメタル復旧
- デスクトップ / ラップトップの保護
- 自動更新
- ローカルまたはクラウドにインストール可能なソフトウェア
- サードパーティと統合するための API の包括的なセット

使いやすさ

シンプルなオールインワンの一元管理 UI

すべての主要なデータ保護機能の運用効率を向上させる、単一の統合管理コンソール

- 保護ライフサイクル全体を管理するための多対1の一元管理
- すべてのサーバ、デスクトップ、ラップトップを単一の UI から管理
- 新しく設計し直されたユーザ インタフェース
- 直観的なワークフローベースの保護戦略、計画、タスク
- Web ベース (Web サービスを含む)
- ステータスの更新
- モバイル デバイスを含む任意のデバイスからアクセス可能
- サードパーティとの統合による拡張に対応



使いやすさ

統合された諸機能

ハイブリッド環境の RPO と RTO を設定、制御、測定、改善するための高度な機能を提供する統合データ保護ソリューション

- 管理とレポーティングの一元化
- RPO と RTO の監視レポート
- 「入門」ウィザード
- Windows と Linux のイメージベースのバックアップおよび復旧
- VMware または Hyper-V システム内のすべての VM のエージェントレス バックアップおよび復旧
- 仮想スタンバイ
- オンサイトまたはオフサイトでのデータストアのレプリケーション
- 継続的なシステム全体のレプリケーション
- Windows、Linux でのシステム全体の HA (ハイアベイラビリティ) またはフェイル オーバ
- 詳細なログ
- テープ移行

ウィザード

以前は複雑でばらばらだったデータ保護タスクの統合を簡素化

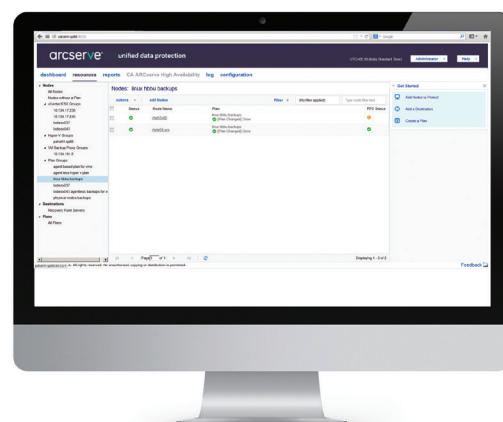
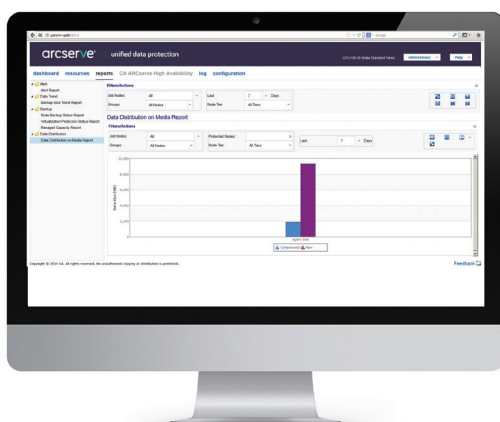
詳細な設定を通じてデータ保護戦略をきめ細かく制御

- シンプルで直観的な設定プロセス - 「入門」ウィザード
- Active Directory を使った検出と簡単なノード追加
- 復旧ポイント サーバ (RPS) とデータストアの追加
- 適正なレベルの RTO/RPO を有効にするための最初の保護「計画」の作成
- 詳細設定による微調整機能
- 大規模な製品トレーニングの必要性が減少
- インストール完了から数分後には最初のバックアップを実行可能

バックアッププラン

SLA のダイヤルに必要な PRO/RTO のレベルに合わせると、望ましい結果を得るために最も適切な技術がソリューションによって選択される

- データ保護の完全なライフサイクル
- ユーザの固有の環境に合わせてカスタマイズされた保護
- 各ノードごとに RTO/RPO のレベルを個別設定
- オフサイト保護
- 将来のモジュールやサードパーティとの統合を可能にするワークフロー エンジン





エンタープライズ クラスの機能とパフォーマンス

バックアップ サーバ全体の重複排除 バックアップにかかる時間を短縮 帯域幅の消費を削減 ストレージのコストを削減 上記すべてをインフラストラクチャ全体で実現	• サイト全体でストレージと帯域幅の要件が低減し、保護と復旧が迅速化される • データがターゲット RPS へ転送される前に重複が排除されるため、バックアップのパフォーマンスが向上し、必要な帯域幅が減少する • バックアップ サーバ全体：ノード間、ジョブ間、サイト間でデータの重複が排除される • 高速の個別リストアのためにデータをインブレースで復元（テープの場合でも） • 重複排除に適した設計のレプリケーション • ハッシュ データベースの保存に安価な SSD を使用できる - スピードが向上しコストが減少する • 無限増分のスピードとマージの向上
無限増分のパフォーマンス バックアップに使用されるディスク領域とネットワーク帯域幅が減少	• 必要なディスク領域とネットワーク帯域幅が少ないブロック レベルの設計 • クラウドやリモート サイトの保護に最適 • 新しい I2 により arcserve UDP のマージのパフォーマンスが向上 • 重複する修復ポイントデータが存在する場合はインデックス ファイル内のリンクを変更するだけで復旧ポイント サーバデータストア上のデータをマージできるため、復旧ポイントサーバのマージ ジョブが大幅に迅速化
復旧ポイント サーバ (RPS) 間レプリケーション機能を標準装備 データ保護インフラストラクチャの対障害弾力性が向上	• RPS から RPS への実証済みのブロックベース レプリケーション • 面倒なファイアウォールの問題がない HTTP トンネリングを介した一方向通信 • 失敗したジョブを最後のブロックで再開 • スケジュールと保存の詳細な設定 • 複数の復旧ポイント サーバ (RPS) へのデータのレプリケーションが可能 • レプリケーション タスクの完了時の検証 • 同時ジョブの高度なサポート • 圧縮、暗号化、重複排除されたバックアップのサポート
オフサイト保護の強化 復旧用サイトまたはリモートサイトのデータ シーディングを簡単にスタートし、ネットワーク コストを低減	• オフライン同期による復旧ポイント サーバの迅速な導入とデータ移行の向上 • 帯域幅が限られている環境や接続料金が従量制の環境に最適 • オフサイトのデータ保護リスクの低減 • Amazon、Azure、Rackspace など、シーディング サービスを提供するパブリック クラウドをサポート • テープが不要
拡張 成長に応じて簡単に拡張できる	個々の要素を別々のホストにインストール • 大規模企業が arcserve UDP を拡張する場合、個々の要素または役割を個別にインストールすることでパフォーマンスを最適化できる 複数の要素を単一のホストにインストール • 中小企業やリモート オフィスは、ソリューションの要素や役割を単一のホストやノードに統合してコストと複雑さを低減できる



エンタープライズ クラスの機能とパフォーマンス

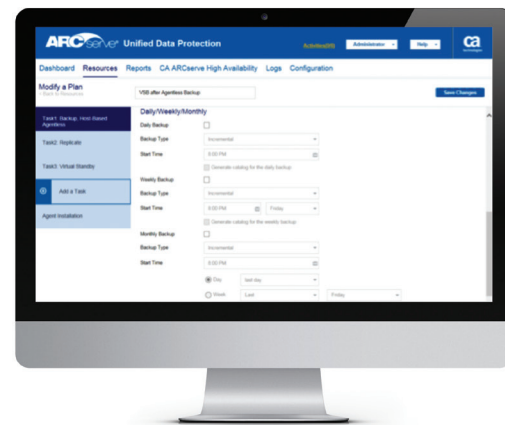
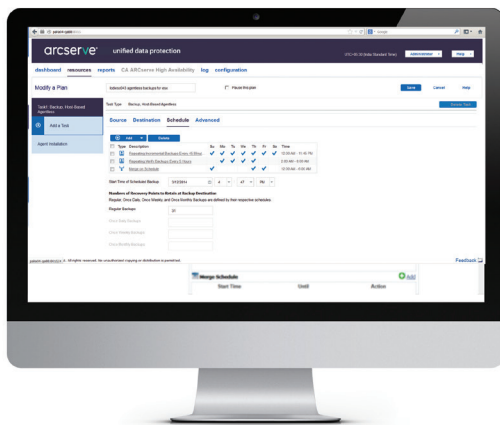
スケジュールと保存の詳細な設定

データ保護戦略と SLA のきめ細かい制御が可能

- スケジュール、保存、スロットリングの詳細な制御
- バックアップ無効 / 停止のスケジュール
- バックアップの日時、スロットリング、マージ タスクを曜日によって定義
- 日次、週次、月次のバックアップについて詳細な保存スケジュールを作成
- 各 RPS に固有の保存計画
- テープ移行

その他の機能

- 物理 / 仮想マシンで動作している Linux クライアントのエージェントレスに近いバックアップ
- 元のハードウェアまたは異なるハードウェアへのバメタル復旧
- カタログなしのバックアップ
- ソース ノードにかかる負荷の軽減 : 増分マージとバックアップ カタログ生成を RPS が担当
- ストレージ管理 : 復旧ポイントの自動ブルーニング、リソースが低下した場合のアラート送信
- 復旧ポイント サーバ (RPS) のデータストアのテープ バックアップ : リストアを実行するためにイメージベース バックアップをテープ上で直接復元





仮想保護および物理保護のために最適化された機能

ローカルおよびリモート仮想スタンバイ ローカルでもリモートでも RPO と RTO を改善	- Windows サーバ、VM のシステム、アプリケーション、データの定期的なイメージベースの保護 - リモートの保存場所（リモート オフィス、DR サイト、MSP、クラウド）へのレプリケーション - リモートサイトでの仮想サーバへの、復旧ポイントの VHD または VMDK 形式への変換 - ハイパーバイザへの登録 - サーバのハートビートの監視 - リモート リソースへの手動フェイルオーバー
VMware、Hyper-V ホスト環境用の高速かつシンプルなエージェントレス バックアップ ハイパーバイザ環境の保護を簡素化し、コストを削減	- 各 VM にソフトウェア エージェントをインストールする必要のない、全 VM のシングルパス バックアップ - ターゲット ハイパーバイザ上の VM を自動検出 - VMware vStorage API との統合 - 変更されたブロックのみをバックアップ - アプリケーション レベル（Exchange、SQL など）での一貫性とトランザクション ログの消去 - 各 VM 内での個々のファイル、フォルダの復旧が簡単 - UDP コンソールからのノード、グループ、計画の一元管理
システム全体の HA（ハイアベイラビリティ） 仮想および物理システム全体に及ぶプッシュ ボタン式のニア インスタント復旧	- arcserve UDP コンソールとの統合 - Windows、Linux のシステム全体（OS、アプリケーション、データ）を保護 - 継続的なシステム全体のレプリケーションにより、ビジネス アプリケーション、ファイル、データを含むシステム全体のニア インスタント復旧が可能 - 自動化された DR テスト、プッシュ ボタン式のフェイルオーバー / フェイルバック、またはその両方 - リモート サイトのための WAN 用に最適化されたレプリケーションとオフライン同期 - P2P、P2V、V2V、V2P をサポート - DAS、SAN、NAS、クラウド ストレージをサポート
自動復旧テスト 目標から検証までをカバーする完全に自動化されたテストとレポート	- 基幹システム、アプリケーション、データの自動災害復旧テストを独立のレプリカ サーバで実行 - 業務の中断を必要としないプロセスにより、業務の中断と本番システムへの影響を回避 - 必要に応じて、復旧テストの完全な自動化またはスケジュール通りの実行が可能 - コンプライアンス監査担当者にシステムの復旧可能性の証拠を提供する自動復旧テストのレポート
その他の機能	- Windows 以外の VM の保護 - 電源を切られた VM のバックアップと、UAC が有効な場合のシングルパス バックアップ - vDS VLAN - スナップショットを使った VM の保護



サービス指向アーキテクチャ

文書化されたオープンな API アクセス

アプリケーションとフレームワークにおける統合を簡素化

- Web サービス API
- 公開されたデータベース ログ スキーマ
- 簡単なサードパーティ統合機能
- arcserve UDP の機能を拡張
- 他社開発のアプリケーション、フレームワーク、またはプラットフォームと統合可能
- リモート監視管理 (RMM) の統合に最適

復旧ポイント サーバの簡単スタート

オフサイトのデータストアへのデータ転送とコストの削減

- オフライン同期による Recovery Point Server の迅速な導入とデータ移行の向上
- 帯域幅が限られている環境や接続料金が従量制の環境に最適
- オフサイトのデータ保護リスクの低減
- Amazon、Azure、Rackspace など、シーディング サービスを提供するパブリック クラウドをサポート
- テープが不要になる

安全なテナント ストレージ

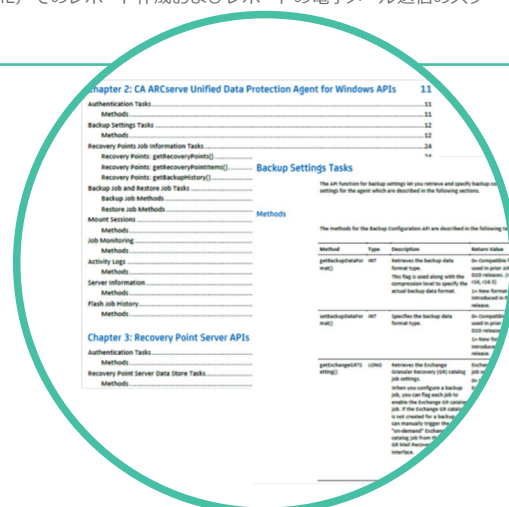
データ保護サービスを安全に最適化

- すべてのテナント保護を単一の MSP パートナーが管理している場合に最適のソリューション
- すべてのテナントを対象とした重複排除の最適化
- お客様の RPS 名による独立したフォルダ構造へのアクセス
- 256 ビット AES 暗号化によってデータのセキュリティを強化
- MSP のストレージ コストを削減

サービスレベル レポート

社内外のお客様のために SLA を管理する責任者の役に立つ

- サイト全体のすべての arcserve ソリューション (ASBU、UDP) の総ストレージ消費量レポート
- 物理ノード、仮想ノードに関する詳細なステータス レポート
- 詳細なログ
- 複数形式 (PDF/CSV/HTML) でのレポート作成およびレポートの電子メール送信のスケジュール設定





主要な差別化技術の要約

arcserve Unified Data Protection (UDP) は、業界で認められたイメージ バックアップ、テープ、レプリケーション、HA (ハイアベイラビリティ)、バックアップ サーバ全体の重複排除技術を1つのシンプルなソリューションにまとめたものです。arcserve UDP の次世代アーキテクチャは、極めて使いやすい包括的な自動復旧テスト機能を提供します。これらの革新的技術には、新しい統合されたスケールアウト アーキテクチャ、シンプルなタスクベースのバックアップ ブラン、Assured Recovery 機能、バックアップ サーバ全体の重複排除が含まれます。arcserve UDP を競合他社の製品から差別化する主な技術と機能の要約を次の表に示します。

幅広い機能を備えた 統合ソリューション	イメージ バックアップ、HA (ハイアベイラビリティ)、テープ、クラウド、 仮想、物理、バックアップ サーバ全体の重複排除 1つのUIで操作でき、中核となるデータ保護技術がすべて1つの ソリューションに統合されている
使いやすさ	導入後すぐに使える、ウィザードを活用したエンタープライズ クラスの保護 (エンドツーエンドのお客様体験が向上) 保護計画 購入、導入、ライセンス登録、構成
Assured Recovery™ による復旧時点および 復旧時間の検証	復旧時間と復旧時点の検証 システム全体のHA (ハイアベイラビリティ) を実現する自動復旧テスト 自動的な仮想スタンバイ レポートとログ
サービスプロバイダに 適した機能	MSP機能 文書化されたAPIとログ スキーマ MSPパートナー プログラム



まとめ

arcserve UDP は、オンプレミス、オフプレミス、およびクラウドに対応した、市場で初めての使いやすく導入も簡単な統合データ保護、復旧、および HA（ハイアベイラビリティ）ソリューションを提供します。 arcserve UDP では、組織のニーズや IT 環境の変化に応じて機能を拡張したり追加することができます。使いやすく導入も簡単でエンタープライズレベルの機能を備えたこのソリューションを使用すれば、高度なデータ保護、復旧、およびアベイラビリティが従来よりはるかに達成しやすい目標となり、複数のポイントソリューションを使用する場合の複雑さからも解放されます。その結果、管理者が RPO と RTO を真に管理、測定、および制御することが可能になります。 arcserve UDP の次世代統合型アーキテクチャでは、エンドユーザが小規模なソリューションから始めて成長と共に従来のバックアップを超える機能（レプリケーション、HA（ハイアベイラビリティ）、高度な仮想保護、復旧のサポートなど）を追加していくことができます。IT の専門家の多くは、RPO と RTO を達成することがすべてであることを絶えず思い知らされています。その目的のために、自動復旧テスト機能を備えた統合型アーキテクチャを使用するべきではないでしょうか。



arcserve UDP の詳細については、arcserve.com/jp をご覧ください。

Copyright © 2014 arcserve, LLC. All rights reserved.

Microsoft、Hyper-V、Active Directory、および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Linux® は、米国およびその他の国における Linus Torvalds の登録商標です。UNIX は The Open Group の登録商標です。本書に記載の他のすべての商標、商号、サービス マーク、ロゴは、該当する各社に帰属しています。本文書は情報提供のみを目的としています。本文書に含まれる情報の正確性または完全性について一切の責任を負いません。本書は、当該の法律で認められる範囲で「現状のまま」提供するものであり、いかなる種類の保証も伴いません。これには、特定の目的に対する市場性または適合性、非違法性についての黙示の保証が含まれますが、これに限定されるものではありません。また、本書の使用が直接または間接に起因し、逸失利益、業務の中断、営業権の喪失、業務情報の損失等、いかなる損失または損害が発生しても、一切責任を負いません。かかる損害の可能性について明示的にあらかじめ通告されていた場合も同様とします。

arcserve

UNIFIED DATA PROTECTION

NEW ARCSERVE UDP次世代データ保護: 物理および仮想の両環境全体で、業界で認められたレプリケーション、HA (ハイアベイラビリティ)、バックアップ サーバ全体の重複排除機能を統合します。組織の成長に合わせた無限の拡張性を提供します。革新的で使いやすいWebベースのGUIによって優れた操作性を実現し、データ保護のための画期的な製品です。

assured recovery.